

脊椎・脊髄外科の名著 待望の日本語訳！

原著は1975年の出版以来30年以上にわたって高い評価を獲ており、最新版である第5版を第一線の専門医の協力により翻訳。レファレンスとしてはもちろん、研修医のテキストブックとしても最適。

翻訳者一覧
(各施設を五十音順に配し、責任者より順に翻訳者名を掲載した。*は総監訳者、**は監訳者。)

- 今給黎総合病院・東京大学 昭和会クリニック 松永 俊二 古賀 公明
- 鹿児島大学 小宮 節郎* 米 和徳 井尻 幸成 石堂 康弘 山元 拓哉
- 京都府立医科大学 久保 俊一** 辻 吉郎 堀井 基行 徳永 大作 三上 靖夫 池田 巧 長江 将輝
- 熊本整形外科病院 栄 輝巳 内田 仁 平川 敬
- 久留米大学 永田 見生 佐藤 公昭 朴 珍守 山田 圭 吉田 龍弘
- 高知大学 谷 俊一 谷口愼一郎 武政 龍一 川崎 元敬 井上 真輔
- 札幌医科大学 山下 敏彦 竹林 庸雄 村上 孝徳 川口 哲 吉本 三徳
- 総合せき損センター 芝 啓一郎 高尾 恒彰
- 東京大学 中村 耕三 星地重都司 竹下 克志 緒方 直史 筑田 博隆
- 東海大学 持田 譲治** 東 永廉 渡辺 雅彦 佐藤 正人 大熊 正彦 酒井 大輔
- 獨協医科大学 野原 裕 種市 洋 北川 知明 飯田 尚裕 浅野 聡
- 長崎労災病院 小西 宏昭
- 福井大学 馬場 久敏 内田 研造 中嶋 秀明 久保田 力 犬飼 智雄
- 福島県立医科大学 菊地 臣一
- 山口大学 田口 敏彦
- 和歌山県立医科大学 吉田 宗人** 南出 晃人 川上 守 中川 幸洋 山田 宏 安藤 宗治

本書は“Rothman-Simeone The Spine” Fifth Edition の日本語訳である。成人および小児における脊椎・脊髄外科手術の基礎から臨床まで、最新の知見に基づいた広範な情報を網羅している。名著として多くの読者を得ており、この膨大な知識をさらに多くの整形外科医・脳神経外科医へ提供すべく、このたびの翻訳へと至った。イラスト・写真を多数収録し、脊椎・脊髄に関するあらゆるトピックスについて今日的な洞察が加えられている。脊椎・脊髄の診断・治療の際に、また確認したい事項や診断基準など目を通したい時に是非活用していただきたい。

(40%縮小、実物は215×280mmのA4変型判)

本文組見本



20章 前椎インストゥルメンテーション：前方法及後方法 439

図20-14 矢状面上で下位胸椎前視スクリーン。スクローが椎体中央へ導入しているにもかかわらず、血管影は椎体動脈の正常な走行を示す。

5 要約

前椎インストゥルメンテーションはより洗練された支持性と軽量化をもち、後方インストゥルメンテーションで固定する。不良な骨質、精神状況、あるいは著明な神経症状などの患者側の種々の問題がある時、前方再建による強固な固定を得ることは意味がある。前方再建はこれまで述べてきたインプラントの組み合わせで可能である。後方ワイヤリングによる前方プレートは補助も有用である。

KEY POINTS

地位、長い範囲の前後固定あるいは後頭骨や胸椎が固定範囲に含まれる場合は、前中のアラメントに十分な注意を払うことが重要である。適切なアラメントは安全なインプラントの設置と前後の冠状面と矢状面での良好な脊椎の弯曲につながる。

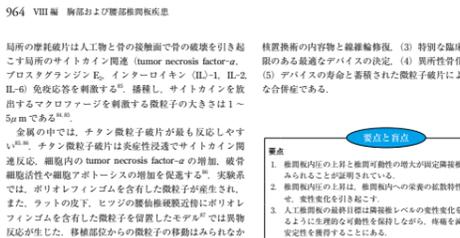
重要度の高い章では「KEY POINTS」として簡潔に要約

イラスト・X線画像・解剖写真・チャートなど図版を豊富に使用



1488 XIV編 合併症

図1488-1 L4-5後方固定後3年X線。前後像(A)、側面像(B)。L4-5にはしっかりと移植骨が見えるがL5-S1はまばらである。固定後4年X線前後像(C)。前後像(D)。移植骨に変化はないが、S1スクローは折断し、L5-S1レベルの偽関節を見ている。患者の症状は安定したままで、手術成績は非常に良好である。



964 VIII編 胸部および腰部椎間板疾患

局所の摩擦抵抗は人工骨と骨の接触面で骨の破壊を引き起こす局所のサイトカイン関連(tumor necrosis factor- α 、プロスタグランジンE₂、インターロイキン(IL)-1、IL-2、IL-6)免疫応答を刺激する。腫腫し、サイトカインを放出するマクロファージを刺激する。微粒子の大きさは1~5 μ mである¹⁰⁴。

5 要約

椎間椎間節を損傷しようとする我々の試み(自然のシステムの強靱さ、弱さ、隠された複雑さを改めて認識すること)につながっている。40年の研究がもたらしているが、椎間節のメカニクス、生理、変性と終極に関する多くの事象を理解するには、いまだ比較的初期の段階であるといわざるを得ない。

主要参考文献

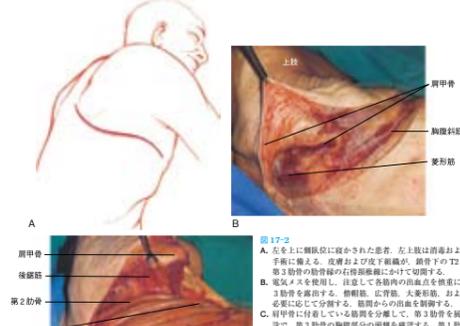
1. Bao QR, McCullen GM, Hingham PA, et al: The artificial disc: Theory, design and materials. *Biomaterials* 17: 1157-1167, 1996.

2. Cummings BH, Robertson JT, Gill SG: Surgical experience with an implantable artificial cervical joint. *J Neurosurg* 88: 943-948, 1998.

3. Frenschay or Bristol prototypical cervical disc of the ARAISの記述と早期の患者満足度の成績を示した最初の臨床的報告。

注意すべきポイントを「要点と盲点」として抜粋

重要な文献を「主要参考文献」としてピックアップし概要を記述



17-1 A. 椎間孔突陥や外傷から、隣椎上1~2cm上までの椎間の皮膚を露出する。

17-2 A. 右を上に頸部位に寝かせられた患者。右上肢は消毒および麻酔され手術に備える。皮膚および皮下組織が、隣椎下のT2椎柱筋から第3肋骨の肋骨縁の右側頭部にかけて切開する。



24-3 椎間節の閉鎖は椎体間ディストラクターを調整させて行う。



24-4 椎間節の閉鎖は椎体間ディストラクターを調整させて行う。

カラー図版も豊富に掲載

第5版では、新たにThe Failed Back(手術の不成功例)についてのセクションを設け、最も複雑で困難な問題を体系的に説明している



60-1 実行した進行性変化を示すL4-5椎間高度の横断像。高尾(CE)が肥大した椎間関節(LF)と黄色軟部(LF)。椎間節の閉鎖によって圧迫されている。

60-2 頸椎に対する頸部位。

本書の内容

■ Volume I	49 軸性疼痛に対する手術療法
I編 基礎科学	50 頸椎神経根症
1 脊椎の発生・成長	51 頸髄症に対する前方手術
2 脊椎の臨床解剖	52 頸部髄症：後方アプローチ(椎弓切除術)
3 背筋の構造と機能	53 頸椎椎弓形成術
4 椎間板一形態、加齢、病理	54 後縦靭帯骨化症
5 腰部の筋肉組織：解剖学的構造と機能	
6 腰椎椎間板ヘルニアと脊柱管狭窄症における坐骨神経痛と神経根性疼痛：基礎科学のレビューと臨床への展望	
7 骨粗鬆症と骨代謝	
8 遺伝子応用(概論)	
9 脊椎の安定性に関する生体力学的考察	
10 脊椎疾患のアウトカム研究	
■ Volume II	
VIII編 胸部および腰部椎間板疾患	
55 胸椎椎間板ヘルニア	
56 腰部椎間板疾患への展望	
57 経皮的腰椎手術	
58 椎間板ならびに髄核置換術：基礎科学と臨床成績	
59 腰椎椎間板ヘルニア	
IX編 脊柱管狭窄症	
60 脊柱管狭窄症：病態生理学、臨床診断、鑑別診断	
61 脊柱管狭窄症の保存療法	
62 腰部脊柱管狭窄症の手術治療	
X編 成人脊柱変形	
63 変性脊椎すべり症	
64 狭部脊椎すべり症	
65 成人性側弯	
66 胸腔鏡手術：臨床的応用	
XI編 脊椎外傷	
67 上位頸椎損傷	
68 頸椎下部損傷	
69 胸腰椎損傷	
70 脊椎損傷患者に対する非急性期除圧	
71 仙骨骨折	
72 脊椎損傷患者の急性期治療	
73 頸椎外傷に関連した椎骨動脈損傷	
74 外傷や変性疾患に対する脊椎装具	
75 脊椎損傷リハビリテーション	
XII編 脊椎骨腫瘍・代謝性疾患	
76 脊椎の腫瘍	
77 脊椎感染症	
78 脊椎の骨代謝性疾患	
79 骨粗鬆症：手術療法	
XIII編 脊髄	
80 硬膜内腫瘍	
81 脊椎硬膜内感染	
82 脊椎・脊髄の血管解剖、画像診断、そして脊椎・脊髄血管疾患に対する血管内治療	
83 脊髄血管奇形	
84 脊髄空洞症	
XIV編 合併症	
85 手術における神経合併症	
86 硬膜損傷	
87 脊椎手術における血管合併症	
88 インストゥルメンテーション合併症	
89 脊椎手術後感染	
XV編 手術の不成功例	
90 術後の経過不良：治療のアルゴリズム	
91 再手術：椎間板摘出術と脊柱管狭窄偽関節治療	
92 リビジョンの戦略：破綻したインストゥルメンテーション	
93 頸椎の術後変形	
94 医原性矢状面バランス不良固定	
95 慢性疼痛のコントロールのための外科的アプローチ	
XVI編 リハビリテーション	
96 腰痛患者の復職	
97 慢性疼痛治療における心理学的戦略	
98 腰痛と神経根症に対する薬理学的戦略	
99 腰痛と神経根症に対する保存療法	